

第四回情報 IT 活用分科会(東京) 議事録

日時: 2009/6/23(火)15:00~18:00

会場: クオリティ 本社 6F 会議室

テーマ: クラウドコンピューティングによるコスト削減と革新の両立

講師: 有限会社コザック 代表取締役社長 河端善博 様
(SQL Server ユーザーグループ PASSJ 理事/Microsoft MVP for SQL Server/INETA Japan 理事)

司会・進行: IT 活用分科会座長

HOYA(株)

オプティクス事業部 管理部 情報システム管理課 ITグループ グループリーダー

柿崎 敦司 氏

※当分科会の運営方針により、個人/会社名を特定できる発言、および発表者から公開の許可を得られなかった内容は 議事録より削除されています。あらかじめご了承ください。

[講演へのご質問]

Q:「クラウド・コンピューティング」とはそもそも何なのか?定義が曖昧で分かりにくい。要するに従来のレンタルサーバを仮想化して、大規模なモノを貸し出していると考えて良いのか?

A:サービスとしてコンピュータ、アプリケーションを活用するビジネス全体をさしていると考える。

今後 SaaS, ASP, アウトソース、PaaS、企業内のクラウドなど、多様な展開が進んでいくと思われる。

Q:SaaS事業者がサービスを停止した時、データは保全されるか?

A:サーバ上のデータについては、各事業者のビジネス上の信頼関係に依存する。

SaaS事業者が業務停止した場合に、契約者が業務を継続する方法については、個別 SaaS 事業者への確認になる。SaaS用プラットフォームを提供するデータセンターは、データ保全に協力していく予定。

Q:仮想環境を手元に作成する方法は?

A:ハードウェアは、仮想化に対応するCPUを搭載したコンピュータが必要。

OSは、Windows Server 2008 Standard Edition の場合、1 個の仮想化ライセンスが付属している。

また、各種仮想化システム提供会社 VMware, Xen, Hyper-V 等は、無償の仮想化環境を提供している。

マイクロソフトは、Hyper-V Server を提供している。

「Hyper-V Server 2008」

<http://www.microsoft.com/japan/servers/hyper-v-server/default.mspx>

仮想環境上で動作するOSのライセンスは、個別に導入する必要がある。

Q: 仮想化クラスタ環境を手元に作成するには？

A: Hyper-V の場合、次のとおり。

Hyper-V Server 2008 R2,

Windows Server 2008 Enterprise Edition

R2 は、秋頃正式リリースされる予定。

現在、RC 版が配布されている。Enterprise Edition は、既存のバージョンでクラスタに対応している。

VMware Vmotion に相当する機能は、Hyper-V では R2 にて提供される予定。

また、クラスタを構築する場合、iSCSI, FC 等で接続する共有ストレージが必要。

Windows 上で動作する iSCSI Target 機能を提供する無償ソフトは、

StarWind Free 版があります。

「StarWind Free」

<http://www.starwindsoftware.com/free>

VMware, Hyper-V クラスタで動作することがメーカーにより、確認されている。

Q: 現在、仮想に関しては、その上で動くアプリケーションを保障していないが、その辺りはどう考えているか？

A: お客様には GuestOS を貸し出して、テストしていただいている。

Q: 紹介したクラウドの情報は？

A: ご紹介したクラウド・プラットフォームは、次の通り。

サービス: NOAHプラットフォームサービス

提供: IDCフロンティア (旧ソフトバンクIDC)

URL: http://www.idcf.jp/services/hosting/noah_p/platform.html

プレスリリース: <http://www.idcf.jp/pressrelease/2009/20090623001.html>

私は、本システムの企画、設計、構築、顧客提案をさせていただいております。

Q: クラウドの利用を休止し、環境を保存するサービスの提供は？

A: 利用環境をサーバ上に登録したまま、一時的に利用を停止することが可能。

利用方法について、価格などは要相談。サーバ環境を起動していない月の料金、および、初期費用について、特に検討する。

Q: サーバ負荷に合わせて、自動的に拡張するサービス提供は？

A: サーバ負荷増大時に、サーバーリソースを強化するサービスを検討する。

特に、設定済みのサーバ環境を、サーバ上に準備し、停止させておき、負荷が上がった時、自動的にサーバを起動するサービスなどを提案する。現在、CPU、メモリの増減は、サーバのシャットダウンが必要になるため、自動対応サービスは提供していない。

Q: 電話サポートは？

A: 標準で提供している(24 時間 365 日提供)

Q: リモート接続時、企業側のファイアウォールの設定変更は必要か？

A: リモート接続は、HTTPS プロトコルで利用できる。RDP プロトコルを HTTPS にカプセル化して接続する環境を提供している。お客様環境は、Windows XP SP3 移行のリモートデスクトップが利用可能。

Q: ディスク容量は減らせないか？

A: 個別対応している。

新しいディスク領域を追加後、コピーする方法が最も簡単な手段。既存のディスク容量を減らす方法もある。